

R3(2021).11.10 (水)
校内研修会@大田区立石川台中学校

読解力向上のために
～「主体的・対話的で
深い学び」との関連で～

吉田和夫 yoshidak13@goo.jp

<https://educational-design.jimdofree.com/>

一般社団法人教育デザイン研究所 代表理事
日大文理学部講師(教育課程論・社会教育計画論・
教職実践演習担当) 元玉川大学客員教授

文部科学省 審査会主査

東京都地域学校協働活動推進員

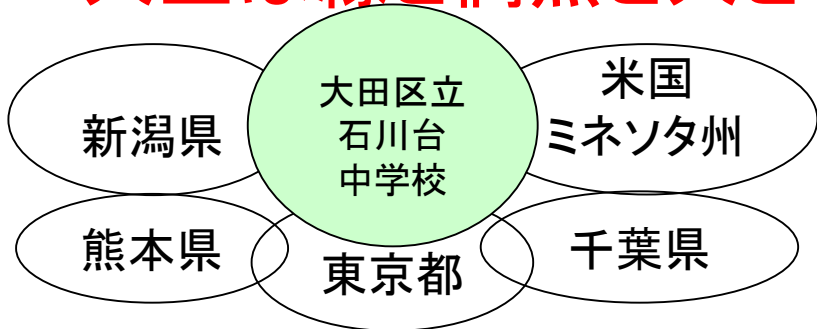
(狛江市統括コーディネーター)

東京都町田市社会教育委員・生涯学習審議会会長

町田市教育委員会評価点検アドバイザー



人生は縁と偶然と人との出会い！



縁リッチメント 縁パワーメント コントラバーシアル



- 千葉県及び東京都の教員 21年 千葉県茂原・船橋・調布・稲城 国語・英語 剣道部・生徒会・委員会・生徒指導・学年経営・学力向上・上越教育大学大学院派遣(米国の英語教育で修士論文)
- 品川区・東京都の教育行政(教育委員会指導主事) 7年 教育改革・学校選択制・小中一貫教育・中高一貫教育・人権教育
- 学校管理職 学校選択制vs.地域学校協働活動 9年 杉並区副校長3年(学校図書館・放課後学習・学校支援地域本部2004年)八王子市・新宿区校長 各3年(キャリア教育/コミュニティ・スクール経営2007・2010年)
- 大学教員 9年 玉川大学(教員養成8年)・日大文理学部(9年)
- (一社)教育デザイン研究所代表理事 (各種教育コンテンツ開発事業)
- 社会教育委員(議長)・生涯学習審議会会長 8年
- 東京都地域学校協働活動推進員(狛江市統括コーディネーター) 地域協働
- ピンチはチャンス・失敗は成功の元・人間万事塞翁が馬
- シンクロニシティ・セレンディピティ(予期せぬ偶然の結果)

学習に、引き出す力と発信力を！

• 疑問・質問(6W2H)

いつ(時)

どこで(場所)

だれが・だれと(人)

何を(内容・コンテンツ)

なぜ・どうして(理由)

どのように(方法)

どこまで(期限・目標)

いつまで(期日・目標)

「質問する力」の強化



国際社会に通用する
日本社会実現のための
引き出す力と発信力の強化

• 感想・意見・批評・提案

こうなるとどうなる？

こうすればどうなる？

これならどうだろう？

これまではどうだった？

これからはどうなる？

~と~の関係はどうか？

~と~の関係をどうする？

~と~の違いとつながりは？

「レスポンス力」の強化



ICTの利活用

学校経営・学年/学級経営・各教科指導計画

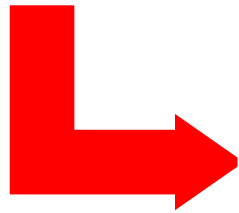
総合的な学習(探究)の時間・道徳・特別活動・各教科の関連

学校経営

方針 計画

- 自主・自律・知性・感性の育成
- 自ら学ぶ・自己を鍛える・人とつながる
- 健康:心身ともに健康・たくましく生きる
- 知性:学び続ける・より良くなる

学校の
経営方針と
全体計画



学年経営

学級経営

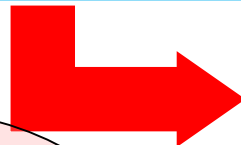
総合的な学習(探究) の時間

道徳 特別活動

各教科の経営

- 学年経営案(3年間の見直しによる学年経営)
- 学級経営(担任としての思い・生徒の主体性尊重)
- 道徳(特別の教科道徳 考え・議論する道徳)
- 特別活動(学級の課題解決)
- 学びにむかう力・人間性の涵養
- 生きて働く知識・技能の習得
- 思考力・判断力・表現力等の育成

自己肯定感
非認知能力
の向上
雰囲気づくり



全体計画に基づ く年間指導計画

各教科年間指導 計画と単元計画

- 学級づくり 学級会 短学級
- 委員会・生徒会による自主・自律・責任育成
- 学校・学年行事の活用
- 上級生・下級生との関係
- 保護者・地域との関係構築・取組強化
- 授業における学習集団づくり

言語活動の充
実と学習成果
の振り返り

船橋市立若松中学校研究発表会11/15 5

令和元・2・3年度船橋市教育委員会指定

「健康教育」公開研究会のご案内

(第2次案内)

【研究主題】

自己肯定感を高め、健康で豊かな心を育む教育実践

4 時 程

受付	公開授業	全体会	分科会
13:00~	13:30~14:20 (国語・数学・保健体育)	14:40~15:40 (研究説明・基調講演)	15:50~16:30 (グループごとに 各教室で実施)

(1) 公開授業・分科会一覧

本校の研究では、各教科を3つのグループに編成し、教科横断的な授業研究を行っています。公開授業や分科会への参加は各教科のグループでご参加ください。

- 表現グループ 国語科 理科 音楽科 美術科
- 学び合いグループ 保健体育科 英語科 技術・家庭科
- 課題解決グループ 数学科 社会科

(2) 基調講演

演 題 「学校生活の質と学ぶ力の向上」

講 師 吉田 和夫 氏

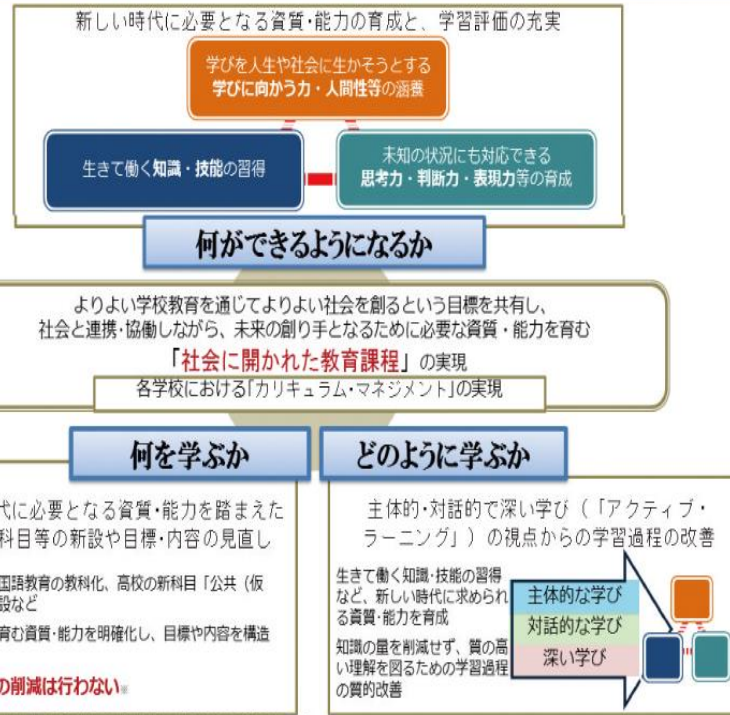
一般社団法人教育デザイン研究所代表理事
日本大学文理学部教育学科講師

分科会グループ	展開授業	単元など	展開場所	分科会会場
表 現	国 語	古文「平家物語」	2-D	2-C
課題解決	数 学	相似の利用	3-B	3-A
学び合い	保健体育	バレーボール	体育館	1-B

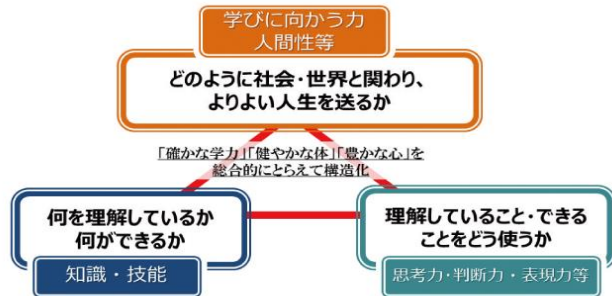
見学・参観希望者は11月1日からの健康観察表提出
参加者の名簿・希望分科会等が必要なので、私に連絡を！

更新中の学習指導要領

学習指導要領改訂の方向性（「生きる力」の理念の具体化）



育成すべき資質・能力の三つの柱



主体的・対話的で深い学びの実現 （「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善）について（イメージ）

「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行うことで、学校教育における質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続けるようにすること

【主体的な学び】

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「**主体的な学び**」が実現できているか。

- 【例】
- ・ 学ぶことに興味や関心を持ち、毎時間、見通しを持って粘り強く取り組みとともに、自らの学習をまとめ振り返り、次の学習につなげる
 - ・ 「キャリア・パスポート（仮称）」などを活用し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりする



学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性等の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

主体的な学び
対話的な学び
深い学び

【対話的な学び】

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「**対話的な学び**」が実現できているか。

- 【例】
- ・ 異社会で働く人々が連携・協働して社会に見られる課題を解決している姿を調べたり、実社会の人々の話を聞いたりすることで自らの考えを広げる
 - ・ あらかじめ個人で考えたことを、意見交換したり、議論したり、することで新たな考え方に気が付いたり、自分の考えをより妥当なものとしたりする
 - ・ 子供同士の対話に加え、子供と教員、子供と地域の人、本を通して本の作者などとの対話を図る



【深い学び】

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「**深い学び**」が実現できているか。

- 【例】
- ・ 事象の中から自ら問いを見だし、課題の追究、課題の解決を行う探究の過程に取り組む
 - ・ 精査した情報を基に自分の考えを形成したり、目的や場面、状況等に応じて伝え合ったり、考えを伝え合うことを通じて集団としての考えを形成したりしていく
 - ・ 感性を働かせて、思いや考えを基に、豊かに意味や価値を創造していく



- 主体的に学習に取り組む態度・思考判断表現・知識・技能という観点
- ★ 「社会に開かれた教育課程」 学校と社会との連携・協働
 - ★ 考え議論する道徳（特別の教科道徳）
 - ★ 小学校における英語科 プログラミング学習
 - ★ 高等学校における「総合的な探究の時間」（「総合的学習」における課題探究活動の明確化）

本日の授業及び指導案から 1

• 数学 発展・谷口舞香主任教諭 標準・瀬戸彩菜教諭

読解力; 自分以外の考えを共有し、類似点・相違点をまとめる

評価の観点 考えようとしている(主体的に～)

3等分できることを確かめた(思考・判断・表現)

スクールタクト 活用

課題

導入・展開・まとめの時間配分(時間管理)

ねらいと評価の対応(ねらい \leftrightarrow 評価)

まとめと振り返り(ねらいと振り返りの対応)

本日の授業及び指導案から 2

- 国語 土田真弓主任教諭(Aグループ・Bグループ)

小人数指導: 学習状況での学習内容の違い(個別)

指令(問題)一覧; ミッションをクリアしてフラッグを集め、コインを探そう! 課題解決型授業の方向性

学習活動の柔軟性; 体験活動型 ひらめき型 QRコード 日常生活とつながる作業 創意・工夫・開発

課題

導入・展開(発展)・まとめの時間配分(時間管理)

ねらいと評価(できる⇔できた) する・している

ねらいと評価の3観点 主体～・思考判断表現・知技

主体的・対話的で深い学びのために

【主体的な学び】 「関心・意欲・態度」との違い

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連づけながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる学び「主体的な学び」が実現できているか。

【対話的な学び】 単なる「話し合い活動」ではない

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること(読書)等を通じ、自らの考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。

【深い学び】学習(知識・技能・思考・判断・表現)をより深める

習得・活用・探究という学びの過程の中で、教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。思考・判断・表現を通して、学習内容の深い理解につなげる「学び」の実現。

学習デザインとマネジメント

起

導入(はじめ)

- 何を学ぶか(目当て・意図・ねらい)
- 何ができればよいのか(達成目標・モデル)

承

展開(中)1

- 学習活動1(基礎的な学習 何をどうやるかを明確に 1)
- 学習評価1(自己評価 何がどうできればいいのか 1)

転

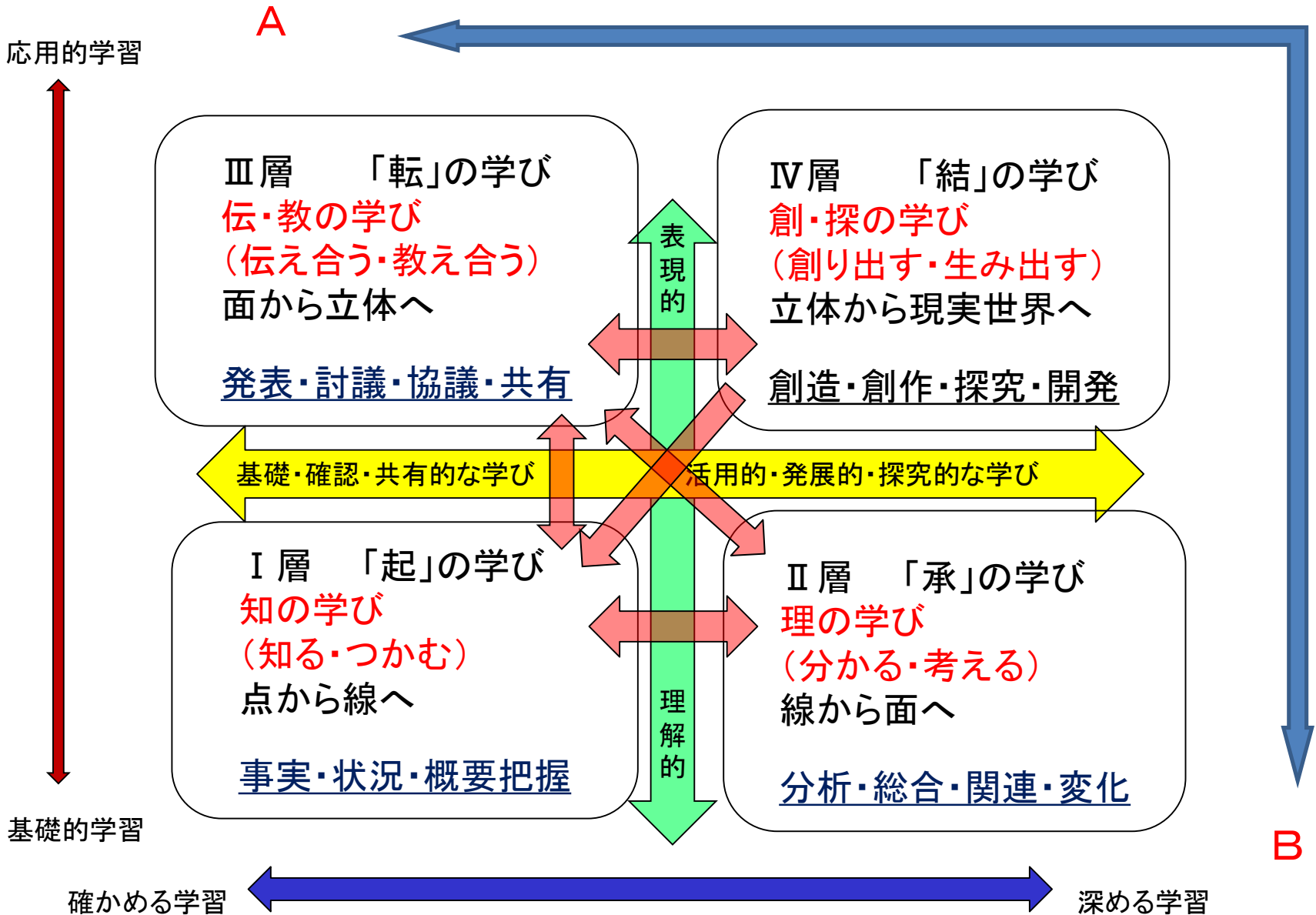
展開(中)2

- 学習活動2(応用・発展的な学習 何がどうできれば良いかを明確に 2)
- 学習評価2(自己評価・相互評価・教師の評価 何がどうできているか 2)

結

まとめ(終わり)

- 授業の振り返り学習(自己評価)
- 分かったこと・学んだこと・できるようになったこと・次の課題・方向



それぞれの段階で活用できるICTがある

起承転結デザインを取り入れた授業構造・プロセス

起の協働

- 目的やビジョンの共有 何のためにやるか
- 実践の動機付け
- 知の実践 知ること 事実・状況・概要・対象の把握

先入観を捨て、まずは知る

承の協働

- 分かること・考えること 自分の思いや考えの明確化
- 理の実践 課題や対象を分析総合し関連や変化を知る

自分と相手を理解し、現状を分析し考え、企画・方策を立案

転の協働

- 相互に学び・分かち合う 共に実践する 考えを深める
- 伝・教の実践 報告・発表異・交流・協議・実践の共有

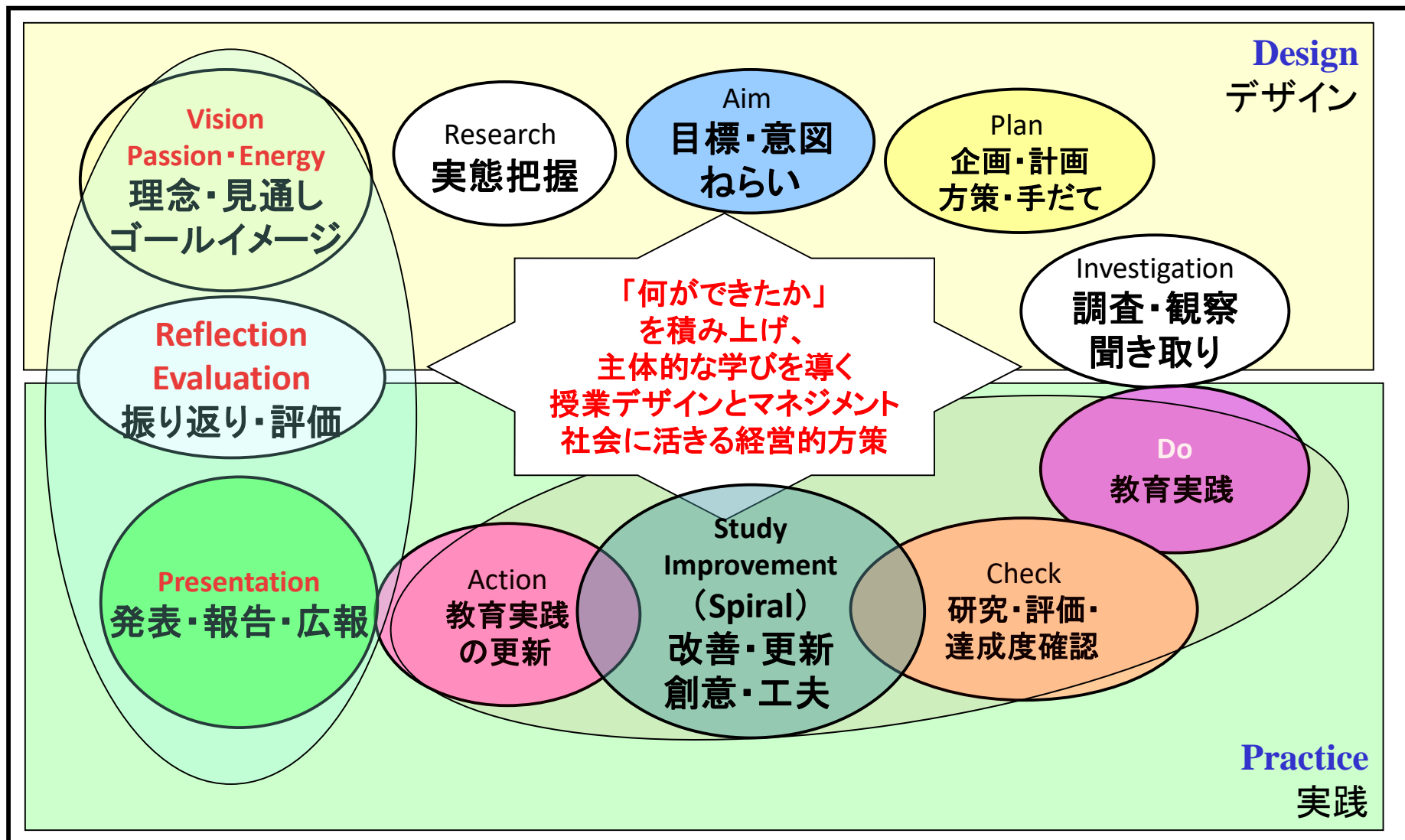
考え、伝え合い、協議し、共通策を立て、それに基づき実践

結の協働

- 生み出し、創り出す 知見や実践を報告・発表する
- 創・探の実践 共生・協創・実践報告作成・振り返り

新たな知見を共有・概念化し、次の課題を設定・共有する

生徒の「学び」の力を高め、社会で生きる 学びのデザインとマネジメントのサイクル



指導から「学び」へ このマネジメント・サイクルを生徒の「学び」と実践に活かす

1 なぜ「見直し・振り返り」が大切なのだろう

- ☆「授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を示す活動や授業の最後に学習したことを振り返る活動を積極的に行った学校ほど全国学力・学習状況調査の**平均正答率が高い**。また、**学習意欲が高い**。」（文部科学省）
- ☆授業において、**子ども自身が「何を学ぶのか」を理解し**、結果として授業で**「何を学んだか」を実感**できる学習活動が大切です。

◎多くの学校でめあての提示や振り返りの時間の実践が行われています！

- ・目標を示す活動を計画的に取り入れた小学校 島根県88.0%
- ・振り返る活動を計画的に取り入れた小学校 島根県75.3%

2 「見直し・振り返り」の難しさ

- ★「学習を振り返り、まとめをしっかりとしたはずなのに、覚えてないなあ。」実は、教師が行っていると考えていても、そのように受け取っていない児童が存在します。

【児童の肯定的回答割合－学校の肯定的回答割合】

めあての提示 島根県：-17 振り返り 島根県：-12

- ※「授業の始めにめあてを提示する」「授業の最後に振り返りの時間を設定する」といった教師の計画を、**学習者である子ども自身が主体的に行えるように工夫**することが大切です。



見直し・振り返り

「自主的に学ぶ態度の育成」「学習内容の確実な定着」
「思考力・判断力・表現力等の育成」をめざして

5 実践例

「見直し」

【課題設定の工夫・解き方の見直し】

- ・国語では「単元を貫く言語活動」を計画したり、理科では単元の最後に行う「ものづくり」を単元の導入で提示したりするなど、児童に学ぶ目的を感じながら学習できるようにしている。
- ・算数では「図（表）にして考えたらよいのではないか」等の解き方の見直しについて話し合うようにしている。

【カードの作成・ゴールイメージ】

- ・めあてや振り返りのカードだけでなく、各学年に希望を聞き、その他のカード（「ペアタイム」「終わった人は」等）を作成している。



「振り返り」

【振り返りの仕方・まとめ方】

- ・多面的な振り返りができ、学習意欲も高められるように相互評価や教師からの賞賛等も交えるようにしている。
- ・振り返りの言葉を出し合い、「めあてとつながっているか」「足りない言葉はないか」の視点で、児童の話合いでまとめるようにしている。
- ・「分かったこと」と「もう一度調べたいこと」を分けて記述させ、児童の言葉から次時の学習課題を設定するようにしている。

3 「見直し」のポイント

★目標分析こそ授業の生命線

- ・学習指導要領や各校で付けたい資質・能力等から目標を明確にする
- ・そして、「教えたいこと」を「学びたいこと」に変える工夫をする

★児童生徒自身が「何を学ぶのか・なぜ学ぶのか」分かること

- ・単元や授業を通した課題意識をもたせる（魅力的な学習課題）
- ・児童生徒自身から疑問が生まれる工夫（体験的な学習活動等から）

★児童生徒自身が「どのように学ぶのか」分かること

- ・学習の流れの提示（視覚化）
- ・モデルを提示（イメージ化）

★学習環境などを工夫すること

- ・前時の振り返りを活用する
- ・目標は分かりやすい具体的な文言で示す



4 「振り返り」のポイント

★振り返りとは、児童生徒が自分の学習を自己評価すること

- ・分かったことなどを**自分の言葉**で記述する
- ・「分かったこと・できたこと」だけでなく、「よく分からなかったこと」や「もっと調べたいこと」なども書くようにすることも大切
- ・記述内容を高めるためには、教師からの評価と指導が重要

★振り返る活動と見直しを立てる活動が対になっていること

- ・めあてと振り返りがつながるように、振り返る視点を児童生徒に示す
- ・振り返りの時間をしっかり確保することが大切

★振り返りにつながる板書・ノートを工夫すること

- ・めあてや思考の過程等が見える板書を残したり、丁寧なノート指導を行ったりすることで、振り返りが充実する

★振り返りの内容を吟味し、指導改善に生かすこと

- ・児童生徒の振り返りを吟味することで、自分の指導を振り返り、次の指導に生かすことができる

センターテストの求める力(国語+α)

- 1:知識** 日本語で書かれた一般的な文章を読み取る際に必要な言葉の意味「語意」と言葉の仕組み「文法」の知識(言語事項系)
- 2:情報** テキストに記述されている情報を読み取り、理解することと、その情報を判断・活用する能力(思考・判断・表現系)
- 3:データ読取** 細部を見落とさず図や表の情報を正しく読み取る力、また設問に答えるのに必要な情報と不必要な情報とを見分ける力(思考・判断・表現系)
- 4:論理** 文章を読んで論理的構造を把握し集合の包含関係を正しく理解する力、また必要に応じて論理演算(操作)を行う力(思考・判断・表現系)
- 5:文脈** 本文に明記された「文と文のつながり」(=論理)の理解度と共に、そこから解釈・類推して趣旨を抽象する能力(深い学び系)
- 6:内容把握** 日本語で書かれた一般的な文章を読み取る際に必要な語い力、また筆者が本文で示した論理展開や趣旨に対する理解度(知識・技能系)

求められる「PISA型読解力」とは何か？

- ▶ 現代はネット空間を信頼性に差がある大量の情報が行き交う。その中で生活を営んでいくのに必要な情報を探し出したり、情報の質を吟味して判断し、自分の考えを発信したりする力を指す。（認識・吟味・判断・表現）
- ▶ しかし、2018年の調査で日本は「情報を探し出す力」と「（情報を）評価し、熟考する力」を測る問題の成績が下がってしまった。 AI時代、このような力が求められている。

PISAの日本の順位と平均得点	
	読解力
2012年	4位(538)
15年	8位(516)
18年	15位(504)
(注) 参加国・地域中の順位。 カッコ内は平均得点	

【矢野 文部科学省大臣官房審議官（初中教育担当） 特別寄稿】

PISA調査2018とGIGAスクール構想

初中教育ニュース（初等中等教育局メールマガジン）第373号（令和元年12月24日臨時号）

https://www.mext.go.jp/magazine/backnumber/1422844_00003.htm

- ▶ 読解力についていえば、前回までは、「読解力」の定義は、書かれたテキスト（本や新聞など出所や校正・校閲がしっかりした書きもの）の中から「情報を探し出す」「字句の意味を理解する」「統合し、推論を創出する」「内容と形式について熟考する。」等でありました。
- ▶ 2018年度からは、オンライン上の様々なデジタルテキスト（ブログ、投稿文、宣伝サイト、メール文）など、文責が誰にあるのか、出所が定かであるのか、校正・校閲がしっかりなされているのかなどが一見明確ではない文書について、「質と信ぴょう性を評価したり」「矛盾を見つけ対処したりする」ことも求めており、問題自体もその7割がPC使用型調査のために開発された新規ものとなっています。つまり、前回までの「読解力」の調査からは大きく変化しているということです。
- ▶ OECDの責任者であるシュライヒャー局長も、現代社会においてデジタルの世界で求められる読解力に焦点を当てたこと、「フェイクニュース」が広がる世界での読解力がより重要な能力になっていることを明確に言及しており、今回のPISA調査は、これまでの「読解力」の範囲に加え「情報活用能力」をも求めていることは明らかだと思います。

<https://www.nier.go.jp/kokusai/pisa/index.html>

これからの読解力 = 読解力 + 情報活用能力の
融合・ハイブリッド型能力

新しいLiteracy（使いこなす力）の重視

- ▶ 1 「情報を探し出す」
- ▶ 2 「字句の意味を理解する」
- ▶ 3 「統合し、推論を創出する」
- ▶ 4 「内容と形式について熟考する」
- ▶ 5 「質と信ぴょう性を評価する」
- ▶ 6 「矛盾を見つけ対処する」

必ずしも国語科だけで育成できるとは限らない。
広い意味での読書力 = 読み取る力、それに対応して自分
の意見や考えを表現する力が必要である。

「読解力」（PISA型読解力）とは、文章や資料から「情報を取り出す」ことに加えて、「解釈」「熟考・評価」「論述」（表現）することを含むもの

- ▶ テキストに書かれた「情報の取り出し」だけではなく、「理解・評価」（解釈・熟考）も含んでいること。
- ▶ テキストを単に「読む」だけではなく、テキストを利用したり、テキストに基づいて自分の意見を論じたりするなどの「活用」も含んでいること。
- ▶ テキストの「内容」だけではなく、構造・形式や表現法も、評価すべき対象となること。
- ▶ テキストには、文学的文章や説明的文章などの「連続型テキスト」だけでなく、図、グラフ、表などの「非連続型テキスト」を含んでいること。

育てたい資質能力と 各教科の関連(教科横断的課題)

<6つの分類>

- 「探究力」
- 「情報活用力」
- 「コミュニケーション力」
- 「創造性」
- 「自立性」
- 「共生的な態度」

<6つの領域>

- 「生活総合」: 六領域の中心で各領域の関連性を高める。
- 算数と理科→「数理」
- 国語や言語活動→「ことば」
- 音楽・図工・家庭科
→「創造表現」
- 体育→「健康」
- 「共生的な態度」を育むため
→「ふれあい」

※ 今後の方向

これからの日本の教育を考える！

ーサスティナブルな「学び」のために

「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す，個別最適な学びと，協働的な学びの実現～（答申）（中教審第228号）

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/079/sonota/1412985_00002.htm

令和3年1月26日

中央教育審議会

中央教育審議会では，令和3年1月26日の第127回総会において「「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す，個別最適な学びと，協働的な学びの実現～（答申）」を取りまとめました。

「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す，個別最適な学びと，協働的な学びの実現～（答申）

・「令和の日本型学校教育」の構築を目指して（答申）【概要】（PDF:2.1MB）

https://www.mext.go.jp/content/20210126-mxt_syoto02-000012321_1-2.pdf

・「令和の日本型学校教育」の構築を目指して（答申）【本文】（PDF:3.2MB）

https://www.mext.go.jp/content/20210126-mxt_syoto02-000012321_2-2.pdf

コンセプトは正しいですが・・・

「令和の日本型学校教育」の構築を目指して

～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)(概要)

令和3年1月26日
中央教育審議会

第I部 総論

1. 急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力

- 社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0時代」の到来
- 新型コロナウイルスの感染拡大など先行き不透明な「予測困難な時代」

新学習指導要領の着実な実施

ICTの活用

一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要

2. 日本型学校教育の成り立ちと成果、直面する課題と新たな動きについて

成果

- 学校が学習指導のみならず、生徒指導の面でも主要な役割を担い、児童生徒の状況を総合的に把握して教師が指導を行うことで、子供たちの知・徳・体を一体で育む「日本型学校教育」は、諸外国から高い評価
 - 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、全国的に学校の臨時休業措置が取られたことにより再認識された学校の役割
- ①学習機会と学力の保障 ②全人的な発達・成長の保障 ③身体的、精神的な健康の保障(安全・安心につながるができる居場所・セーフティネット)

課題

子供たちの意欲・関心・学習習慣等や、高い意欲や能力をもった教師やそれを支える職員の力により成果を挙げる一方、変化する社会の中で以下の課題に直面

- 本来であれば家庭や地域でなすべきことまでが学校に委ねられることになり、結果として学校及び教師が担うべき業務の範囲が拡大され、その負担が増大
- 子供たちの多様化(特別支援教育を受ける児童生徒や外国人児童生徒等の増加、貧困、いじめの重大事態や不登校児童生徒数の増加等)
- 生徒の学習意欲の低下
- 教師の長時間勤務による疲弊や教員採用倍率の低下、教師不足の深刻化
- 学習場面におけるデジタルデバイスの使用が低調であるなど、加速度的に進展する情報化への対応の遅れ
- 少子高齢化、人口減少による学校教育の維持とその質の保証に向けた取組の必要性
- 新型コロナウイルス感染症の感染防止策と学校教育活動の両立、今後起こり得る新たな感染症への備えとしての教室環境や指導体制等の整備

教育振興基本計画の理念
(自立・協働・創造)の継承

学校における
働き方改革の推進

GIGAスクール構想の
実現

新学習指導要領の
着実な実施

必要な改革を躊躇なく進めることで、従来の日本型学校教育を発展させ、「令和の日本型学校教育」を実現

個別最適な学びと協働的な学びの両立！？

3. 2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿

① 個別最適な学び（「個に応じた指導」（指導の個別化と学習の個性化）を学習者の視点から整理した概念）

- ◆ 新学習指導要領では、「個に応じた指導」を一層重視し、指導方法や指導体制の工夫改善により、「個に応じた指導」の充実を図るとともに、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整えることが示されており、これらを適切に活用した学習活動の充実を図ることが必要
- ◆ GIGAスクール構想の実現による新たなICT環境の活用、少人数によるきめ細かな指導体制の整備を進め、「個に応じた指導」を充実していくことが重要
- ◆ その際、「主体的・対話的で深い学び」を実現し、学びの動機付けや幅広い資質・能力の育成に向けた効果的な取組を展開し、個々の家庭の経済事情等に左右されることなく、子供たちに必要な力を育む

指導の個別化

- 基礎的・基本的な知識・技能等を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力等や、自ら学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度等を育成するため、
・支援が必要な子供により重点的な指導を行うことなど効果的な指導を実現
・特性や学習進度等に応じ、指導方法・教材等の柔軟な提供・設定を行う

学習の個性化

- 基礎的・基本的な知識・技能等や情報活用能力等の学習の基盤となる資質・能力等を土台として、子供の興味・関心等に応じ、一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、子供自身が学習が最適となるよう調整する

- ◆ 「個別最適な学び」が進められるよう、これまで以上に子供の成長やつまづき、悩みなどの理解に努め、個々の興味・関心・意欲等を踏まえてきめ細かく指導・支援することや、子供が自らの学習の状況を把握し、主体的に学習を調整することができるよう促していくことが求められる
- ◆ その際、ICTの活用により、学習履歴（スタディ・ログ）や生徒指導上のデータ、健康診断情報等を利活用することや、教師の負担を軽減することが重要

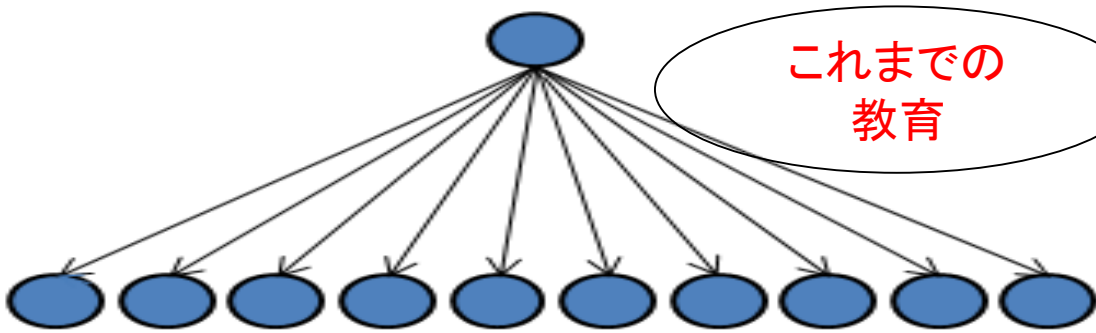
それぞれの学びを一体的に充実し
「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげる

② 協働的な学び

- ◆ 「個別最適な学び」が「孤立した学び」に陥らないよう、探究的な学習や体験活動等を通じ、子供同士で、あるいは多様な他者と協働しながら、他者を価値ある存在として尊重し、様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるよう、必要な資質・能力を育成する「協働的な学び」を充実することも重要
- ◆ 集団の中で個が埋没してしまうことのないよう、一人一人のよい点や可能性を生かすことで、異なる考え方が組み合わせられ、よりよい学びを生み出す
- 知・徳・体を一体的に育むためには、教師と子供、子供同士の関わり合い、自分の感覚や行為を通して理解する実習・実験、地域社会での体験活動など、様々な場面でリアルな体験を通じて学ぶことの重要性が、AI技術が高度に発達するSociety5.0時代にこそ一層高まる
- 同一学年・学級はもとより、異学年間の学びや、ICTの活用による空間的・時間的制約を超えた他の学校の子供等との学び合いも大切

組織と「学び」の在り方はどう変わるか？

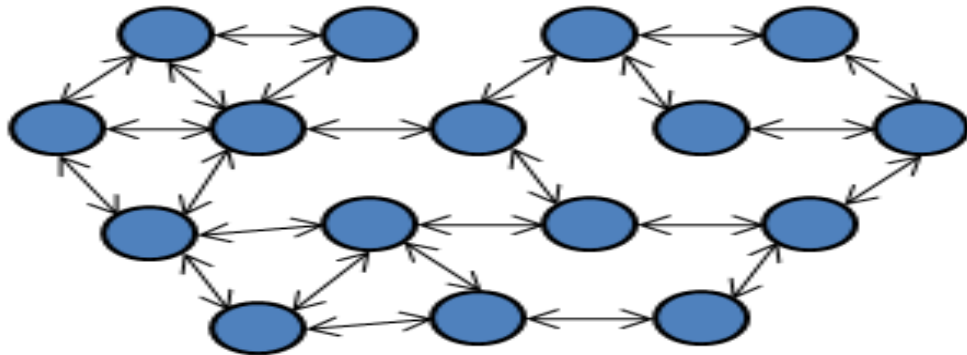
マスメディア



これまでの教育

これからの教育

ソーシャルメディア



- 一斉授業・講義型授業・伝達型講習の限界
- Web検索と学習
- SNS (Social Networking Service) の効果
- On-lineの意義と価値

★ 知識の一方的伝達から、課題解決に向けて、相互交流的な活動により「最適解」の発見・獲得へ(アクティブ・ラーニング)

一気に進んだICTを活用せよということ

5. 「令和の日本型学校教育」の構築に向けたICTの活用に関する基本的な考え方

- ◆「令和の日本型学校教育」を構築し、全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びを実現するためには、**ICTは必要不可欠**
- ◆**これまでの実践とICTとを最適に組み合わせる**ことで、**様々な課題を解決し、教育の質の向上**につなげていくことが必要
- ◆ICTを活用すること自体が目的化しないよう留意し、**PDCAサイクルを意識し、効果検証・分析を適切に行う**ことが重要であるとともに、健康面を含め、ICTが児童生徒に与える影響にも留意することが必要
- ◆ICTの全面的な活用により、学校の組織文化、教師に求められる資質・能力も変わっていく中で、**Society5.0時代にふさわしい学校の実現**が必要

(1) 学校教育の質の向上に向けたICTの活用

- カリキュラム・マネジメントを充実させ、各教科等で育成を目指す資質・能力等を把握した上で、ICTを「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に生かすとともに、従来は伸ばせなかった資質・能力の育成や、これまでできなかった学習活動の実施、家庭等学校外での学びの充実
- 端末の活用を「当たり前」のことで、児童生徒自身がICTを自由な発想で活用するための環境整備、授業デザイン
- ICTの特性を最大限活用した、不登校や病気療養等により特別な支援が必要な児童生徒に対するきめ細かな支援、個々の才能を伸ばすための高度な学びの機会の提供等
- ICTの活用と少人数によるきめ細かな指導体制の整備を両輪とした、個別最適な学びと協働的な学びの実現

(2) ICTの活用に向けた教師の資質・能力の向上

- 養成・研修全体を通じ、教師が必要な資質・能力を身に付けられる環境の実現
- 養成段階において、学生の1人1台端末を前提とした教育を実現しつつ、ICT活用指導力の養成やデータリテラシーの向上に向けた教育の充実
- ICTを効果的に活用した指導ノウハウの迅速な収集・分析、新時代に対応した教員養成モデルの構築等、教員養成大学・学部、教職大学院のリーダーシップによるSociety5.0時代の教員養成の実現
- 国によるコンテンツ提供や都道府県等における研修の充実等による現職教師のICT活用指導力の向上、授業改善に取り組む教師のネットワーク化

(3) ICT環境整備の在り方

- GIGAスクール構想により配備される1人1台の端末は、クラウドの活用を前提としたものであるため、高速大容量ネットワークを整備し、教育情報セキュリティポリシー等でクラウドの活用を禁止せず、必要なセキュリティ対策を講じた上で活用を促進
- 義務教育段階のみならず、多様な実態を踏まえ、高等学校段階においても1人1台端末環境を実現するとともに、端末の更新に向けて丁寧に検討
- 各学校段階において端末の家庭への持ち帰りを可能とする
- デジタル教科書・教材等の普及促進や、教育データを蓄積・分析・利活用できる環境整備、ICT人材の確保、ICTによる校務効率化

各論（目次）

1. 幼児教育の質の向上について

2. 9年間を見通した新時代の義務教育の在り方について

3. 新時代に対応した高等学校教育等の在り方について

4. 新時代の特別支援教育の在り方について

5. 増加する外国人児童生徒等への教育の在り方について

6. 遠隔・オンライン教育を含むICTを活用した学びの在り方について

7. 新時代の学びを支える環境整備について

8. 人口動態等を踏まえた学校運営や学校施設の在り方について

9. Society5.0時代における教師及び教職員組織の在り方について

言語活動でのICT利活用

5.「令和の日本型学校教育」の構築に向けたICTの活用に関する基本的な考え方

【基本的な考え方】

- ✓ 学校教育の基盤的なツールとして、ICTは必要不可欠なもの
- ✓ これまでの実践とICTとを最適に組み合わせていく

＼Society5.0時代にふさわしい学校の実現／

- ▶ 学校教育の様々な課題を解決し、教育の質向上につなげる
- ▶ PDCAサイクルを意識し、効果検証・分析を適切に行う
- ▶ ICTを活用すること自体が目的化してしまわないよう留意

(1) 学校教育の質の向上に向けたICTの活用

- ICTを主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かすとともに、今までできなかった学習活動の実施や家庭など学校外での学びを充実する
- 特別な支援が必要な児童生徒へのきめ細かな支援や、個々の才能を伸ばす高度な学びの機会の提供など、児童生徒一人一人に寄り添った指導を行う

#端末の日常的な活用 #ICTは「文房具」

#ICTの活用と少人数学級を両輪としたきめ細かな指導

(2) ICTの活用に向けた教師の資質・能力の向上

- 教員養成・研修全体を通じ、教師が必要な資質・能力を身に付けられる環境を実現する
- 教員養成大学・学部は新たな時代に対応した教員養成モデルの構築や、不断の授業改善に取り組む教師のネットワークの中核としての役割を果たす

#ICT活用指導力の養成 #データリテラシーの向上

#指導ノウハウの収集・分析

(3) ICT環境整備の在り方

- GIGAスクール構想により配備される端末は、クラウドにアクセスし、各種サービスを活用することを前提
- 各学校段階（小・中・高）における1人1台端末環境の実現と、端末の家庭への持ち帰りが望まれる

#デジタル教科書・教材の普及促進

#教育データの利活用 #ICT人材の確保

#校務効率化

ICT (Information Communication Technology)

できること5点 の機能と活用 その活用例10

1. できなかったことができる
 2. より素早くできる
 3. より高度なことができる
 4. より簡単にできる
 5. より使いやすい
- ① 学校内外での交流
 - ② 仮想教具・教材としての使用
 - ③ 学習成果の確認と共有
 - ④ 教材の提示・配布・回収
 - ⑤ 学習活動の視覚化
 - ⑥ より高度な視覚支援
 - ⑦ 他学年児童生徒との合同
 - ⑧ 情報の共有と活用
 - ⑨ より直感的な操作
 - ⑩ 迅速かつ円滑な操作感

遠隔・on-lineを取り入れたハイブリットな教育

6. 遠隔・オンライン教育を含むICTを活用した学びの在り方について

(1) 基本的な考え方

- ICTはこれからの学校教育を支える基盤的なツールとして必要不可欠であり、心身に及ぼす影響にも留意しつつ、日常的に活用できる環境整備が必要
- 今般の新型コロナウイルス感染症のための臨時休業等に伴う遠隔・オンライン教育等の成果や課題については、今後検証
- ICTは教師と児童生徒との具体的関係の中で、教育効果を考慮して活用することが重要であり、活用自体が目的化しないよう留意する必要
- 対面指導の重要性、遠隔・オンライン教育等の実践による成果や課題を踏まえ、発達の段階に応じ、ICTを活用しつつ、教師が対面指導と家庭や地域社会と連携した遠隔・オンライン教育とを使いこなす（ハイブリット化）ことで、個別最適な学びと協働的な学びを展開

(2) ICTの活用や、対面指導と遠隔・オンライン教育とのハイブリット化による指導の充実

① ICTの日常的な活用による授業改善

- ・ ICTを日常的に活用できる環境を整え、「文房具」として自由な発想で活用できるようにし、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に生かす

② 学習履歴（スタディ・ログ）など教育データを活用した個別最適な学びの充実

- ・ データ標準化等の取組を加速
- ・ 個々の児童生徒の知識・技能等に関する学習計画及び学習履歴等のICTを活用したPDCAサイクルの改善や、円滑なデータの引き継ぎにより、きめ細かい指導や学習評価の充実、学習を改善
- ・ 全国の学校でCBTを活用した学習診断などができるプラットフォームの構築
- ・ 学校現場における先端技術の効果的活用に向けた活用事例等の整理・周知

③ 全国的な学力調査のCBT化の検討

- ・ 全国学力・学習状況調査のCBT化について専門的・技術的な観点から検討を行うとともに、小規模から試行・検証に取り組み、段階的に規模・内容を拡張・充実

④ 教師の対面指導と遠隔授業等を融合した授業づくり

- ・ 発達の段階に応じて、学校の授業時間内において、対面指導に加え、目的に応じ遠隔授業やオンデマンドの動画教材等を取り入れた授業モデルの展開

⑤ 高等学校における遠隔授業の活用

- ・ 同時双方向型の遠隔授業について、単位数の算定、対面により行う授業の実施等の要件を見直し、対面指導と遠隔授業を融合させた柔軟な授業方法を可能化

⑥ デジタル教科書・教材の普及促進

- ・ 学習者用デジタル教科書の効果・影響について検証しつつ、使用の基準や教材との連携等も含め、学びの充実の観点から今後の在り方等について検討
- ・ 令和6年度の小学校用教科書改訂までの間においても、紙との併用が可能な環境下で学習者用デジタル教科書・教材の使用が着実に進むよう普及促進を図る

⑦ 児童生徒の特性に応じたきめ細かな対応

- ・ 不登校児童生徒、障害のある児童生徒、日本語指導が必要な児童生徒を支援しやすい環境の構築に向け、統合型校務支援システムの活用や帳票の共通化等により、個別の支援計画等の作成及び電子化を推進
- ・ 遠隔技術等を用いた相談・指導の実施、ICTを活用した学習支援、デジタル教材等の活用を推進
- ・ 障害のある児童生徒に対する遠隔技術を活用した自立活動支援に係る実践的研究

⑧ ICT人材の確保

- ・ 企業、大学等と連携し、地方公共団体がGIGAスクールサポーター、ICT支援員等のICT人材を確保しやすい仕組みの構築、人材確保・活用事例の全国展開
- ・ 事務職員に対するICTに関する研修等の充実
- ・ 教育委員会において、外部人材の活用も含めたICTの専門家の意思決定を伴う立場への配置促進、ICT活用教育アドバイザーの活用推進

(3) 特例的な措置や実証的な取組等

① 臨時休業時等に学校と児童生徒等の関係を継続し学びを保障するための取組

- ・ 感染症や自然災害等により、児童生徒等がやむを得ず登校できない場合における、学校の教育活動の継続、学びの保障の着実な実施に向けた制度的な措置等の検討・整理

② 学校で学びたくても学べない児童生徒への遠隔・オンライン教育の活用

- ・ 学校で学びたくても学べない児童生徒（病気療養、不登校等）に対し、遠隔・オンライン教育を活用した学習を出席扱いとする制度や、成績評価ができる制度の活用促進に向けた好事例の周知、制度の活用状況の分析、より適切な方策の検討

③ 個々の才能を存分に伸ばせる高度な学びの機会など新たな学びへの対応

- ・ 特異な才能のある児童生徒に対し、大学や研究機関等の社会の多様な人材・リソースを活用したアカデミックな知見を用いた指導に係る実証的な研究開発を推進
- ・ 義務教育段階において、教科等の特質を踏まえつつ、教科等ごとの授業時数の配分について一定の弾力化が可能となる制度を設ける
- ・ 特別な配慮を要する児童生徒に対し、特別な教育課程を編成し、学校外での受講も可能とする遠隔教育を行う特例的な措置を講じ、対面指導と遠隔教育とを最適に組み合わせた指導方法の研究開発を実施
- ・ 高等学校段階において、家庭における同時双方向型オンライン学習を授業の一部として特例的に認め、対面指導と遠隔・オンライン教育とのハイブリット化を検討

eラーニングの歴史とメリット

アナログからCD-ROM

紙媒体による通信教育、ビデオ教材の一方通行による教育

パソコンでのeラーニング

パソコン上でのライブ授業配信 オンライン上のドリルコンテンツ
双方のコミュニケーションによる学習 オンラインによる協議や会議

スマートデバイスでのeラーニング

スマートフォンやタブレットによる いつでもどこでもできる学習

- 好きな場所、時間に何回でも授業を受けることができる
- 登校が難しい、または不登校の生徒も授業に参加しやすい
- 反転授業やで授業の効果を高めることができる
- デジタル教材などで視覚効果が高まる
- 常に最新の学習教材が容易に共有できる
- 学習の進捗状況やフィードバックを一元管理できる

https://www.toshiba-sol.co.jp/business/gene_lw/column/0007.htm

デジタルによる新たな学び

▶ 一人一人（児童・生徒・学生・個人）が個別の情報端末により、ICTを活用することで、課題探究的な学びが、学校・家庭・地域へと広げられる。またオンラインやデジタルコンテンツの活用で、時間と空間を超えた新たな学びが実現できる。

社会教育施設・学校・家庭・地域、 そして専門家・支援者・関係者との容易な接続

↓
電子書籍・電子
データ等

↓
オンラインのつながりによる
学習と人との交流
新たなコミュニティの創生

↓
画像・マップ・数値な
どのデータや情報の
収集と共有

↓
オンラインシス
テムで国内外と
の人的交流

学校教育への期待とプレッシャー！ 学校だけでできるのか？

4. 「令和の日本型学校教育」の構築に向けた今後の方向性

- ◆ 全ての子供たちの知・徳・体を一体的に育むため、これまで日本型学校教育が果たしてきた、①学習機会と学力の保障、②社会の形成者としての全人的な発達・成長の保障、③安全安心な居場所・セーフティネットとしての身体的、精神的な健康の保障を学校教育の本質的な役割として重視し、継承していく
- ◆ 教職員定数、専門スタッフの拡充等の人的資源、ICT環境や学校施設の整備等の物的資源を十分に供給・支援することが国に求められる役割
- ◆ 学校だけでなく地域住民等と連携・協働し、学校と地域が相互にパートナーとして一体となって子供たちの成長を支えていく
- ◆ 一斉授業か個別学習か、履修主義か修得主義か、デジタルかアナログか、遠隔・オンラインか対面・オフラインかといった「二項対立」の陥穽に陥らず、教育の質の向上のために、発達の段階や学習場面等により、どちらの良さも適切に組み合わせ生かしていく
- ◆ 教育政策のPDCAサイクルの着実な推進

全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現のための改革の方向性

(1) 学校教育の質と多様性、包摂性を高め、教育の機会均等を実現する

- 子供たちの資質・能力をより一層確実に育むため、基礎学力を保障してその才能を十分に伸ばし、社会性等を育むことができるよう、学校教育の質を高める
- 学校に十分な人的配置を実現し、1人1台端末や先端技術を活用しつつ、多様化する子供たちに対応して個別最適な学びを実現しながら、学校の多様性と包摂性を高める
- ICTの活用や関係機関との連携を含め、学校教育に馴染めないでいる子供に対して実質的に学びの機会を保障するとともに、地理的条件に関わらず、教育の質と機会均等を確保

(2) 連携・分担による学校マネジメントを実現する

- 校長を中心に学校組織のマネジメント力の強化を図るとともに、学校内外との関係で「連携と分担」による学校マネジメントを実現
- 外部人材や専門スタッフ等、多様な人材が指導に携わることのできる学校の実現、事務職員の校務運営への参画機会の拡大、教師同士の役割の適切な分担
- 学校・家庭・地域がそれぞれの役割と責任を果たし、相互に連携・協働して、地域全体で子供たちの成長を支えていく環境を整備
- カリキュラム・マネジメントを進めつつ、学校が家庭や地域社会と連携し、社会とつながる協働的な学びを実現

(3) これまでの実践とICTとの最適な組合せを実現する

- ICTや先端技術の効果的な活用により、新学習指導要領の着実な実施、個別に最適な学びや支援、可視化が難しかった学びの知見の共有等が可能
- GIGAスクール構想の実現を最大限生かし、教師が対面指導と遠隔・オンライン教育とを使いこなす（ハイブリッド化）ことで、様々な課題を解決し、教育の質を向上
- 教師による対面指導や子供同士による学び合い、多様な体験活動の重要性が一層高まる中で、ICTを活用しながら協働的な学びを実現し、多様な他者とともに問題発見・解決に挑む資質・能力を育成

(4) 履修主義・修得主義等を適切に組み合わせる

- 修得主義や課程主義は、個人の学習状況に着目するため、個に応じた指導等に対する寛容さ等の特徴があるが、集団としての教育の在り方が問われる面は少ない
- 履修主義や年齢主義は、集団に対し、ある一定の期間をかけて共通に教育を行う性格を有し、一定の期間の中で、個々人の成長に必要な時間のかかり方を多様に許容し包含する一方、過度の同調性や画一性をもたらす可能性
- 義務教育段階においては、進級や卒業の要件としては年齢主義を基本としつつも、教育課程の履修を判断する基準としては履修主義と修得主義の考え方を適切に組み合わせ、「個別最適な学び」及び「協働的な学び」との関係も踏まえつつ、それぞれの長所を取り入れる
- 高等学校教育においては、その特質を踏まえた教育課程の在り方を検討
- これまで以上に多様性を尊重、ICT等も活用しつつカリキュラム・マネジメントを充実

(5) 感染症や災害の発生等を乗り越えて学びを保障する

- 今般の新型コロナウイルス感染症対応の経験を踏まえ、新たな感染症や災害の発生等の緊急事態であっても必要な教育活動の継続
- 「新しい生活様式」も踏まえ、子供の健康に対する意識の向上、衛生環境の整備や、新しい時代の教室環境に応じた指導体制、必要な施設・設備の整備
- 臨時休業時等であっても、関係機関等との連携を図りつつ、子供たちと学校との関係を継続し、心のケアや虐待の防止を図り、子供たちの学びを保障する
- 感染症に対する差別や偏見、誹謗中傷等を許さない
- 首長部局や保護者、地域と連携・協働しつつ、率先して課題に取り組み、学校を支援する教育委員会の在り方について検討

(6) 社会構造の変化の中で、持続的で魅力ある学校教育を実現する

- 少子高齢化や人口減少等で社会構造が変化中、学校教育の持続可能性を確保しつつ魅力ある学校教育の実現に向け、必要な制度改正や運用改善を実施
- 魅力的で質の高い学校教育を地方においても実現するため、高齢者を含む多様な地域の人材が学校教育に関わるとともに、学校の配置や施設の維持管理、学校間連携の在り方を検討

外国人が増える？ となると子供も！

5. 増加する外国人児童生徒等への教育の在り方について

(1) 基本的な考え方

- 外国人の子供たちが共生社会の一員として今後の日本を形成する存在であることを前提に、関連施策の制度設計を行うことが必要
- キャリア教育や相談支援の包括的提供、母語・母文化の学びに対する支援が必要
- 日本人の子供を含め、異文化理解・多文化共生の考え方に基づく教育の更なる取組

(2) 指導体制の確保・充実

① 日本語指導のための教師等の確保

- 日本語と教科を統合した学習を行うなど、組織的かつ体系的な指導が必要
- 日本語指導が必要な児童生徒への指導体制の充実
- 日本語指導・母語による支援等の専門スタッフの配置促進と支援体制の構築

② 学校における日本語指導の体制構築

- 日本語指導の拠点となる学校の整備と、拠点校を中心とした指導体制の構築
- 集住・散在等、地域の実情を踏まえた体制構築の在り方の検討
- 拠点校方式等の指導体制構築や初期集中支援等の実践事例の周知

③ 地域の関係機関との連携

- 教育委員会、首長部局、地域のボランティア団体、日本語教室等の関係機関との連携促進
- 特に、教員養成大学や外国人を雇用する企業等との連携

(3) 教師等の指導力の向上、支援環境の改善

① 教師等に対する研修機会の充実

- 「外国人児童生徒等教育を担う教師等の養成・研修モデルプログラム」の普及
- 日本語指導担当教師等が専門知識の習得を証明できる仕組みの構築

② 教員養成段階における学びの場の提供

- 教員養成課程における外国人児童生徒等に関する内容の位置付けの検討

③ 日本語能力の評価、指導方法・指導教材の活用・開発

- 「外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメントDLA」や外国人児童生徒等教育アドバイザーを活用した、日本語能力評価手法の普及促進
- 情報検索サイト「かすたねっと」に登録する教材等の充実や検索機能の充実、多言語により学校生活を紹介する動画コンテンツの作成・配信

④ 外国人児童生徒等に対する特別な配慮等

- 障害のある外国人児童生徒等に対して、障害の状態等に応じたきめ細かい指導・支援体制の構築
- 障害のある外国人児童生徒等の在籍状況や指導・支援の状況把握

(4) 就学状況の把握、就学促進

- 学齢期の子供を持つ外国人に対する、就学促進の取組実施
- 学齢簿の編製にあたり全ての外国人の子供の就学状況についても一体的に管理・把握するなど地方公共団体の取組促進、制度的な対応の在り方の検討
- 義務教育未修了の外国人について、公立中学校での弾力的な受入れや夜間中学の入学案内の実施促進

(5) 中学生・高校生の進学・キャリア支援の充実

- 外国人児童生徒等の進学・就職等の進路選択の支援
- 公立高等学校入学者選抜における外国人生徒等を対象とした特別の配慮（ルビ振り、辞書の持ち込み、特別定員枠の設置等）について、現状把握、情報共有による地方公共団体の取組促進
- 中学校・高等学校段階における進路指導・キャリア教育の取組促進
- 取出し方式による日本語指導の方法や制度的な在り方、高等学校版JSLカリキュラムの策定の検討
- 小・中・高等学校が連携し、外国人児童生徒等のための「個別の指導計画」を踏まえた必要な情報整理・情報共有の促進

(6) 異文化理解、母語・母文化支援、幼児に対する支援

- 学校における異文化理解や多文化共生の考えが根付くような取組促進
- 異文化理解・多文化共生の考え方に基づく教育の更なる普及・充実、教員養成課程における履修内容の充実
- 家庭を中心とした母語・母文化定着の取組の促進、学校内外や就学前段階における教育委員会・学校とNPO・国際交流協会等の連携による母語・母文化に触れる機会の獲得
- 幼児期の特性を踏まえた指導上の留意事項等の整理、研修機会の確保

ソサエティ5.0時代の教育と教職員・社会教育士

9. Society5.0時代における教師及び教職員組織の在り方について

(1) 基本的な考え方

- AIやロボティクス、ビッグデータ、IoTといった技術が発展したSociety5.0時代の到来に対応し、教師の情報活用能力、データリテラシーの向上が一層重要
- 教師や学校は、変化を前向きに受け止め、求められる知識・技能を意識し、継続的に新しい知識・技能を学び続けていくことが必要であり、教職大学院が新たな教育課題や最新の教育改革の動向に対応できる実践力を育成する役割を担うことも大いに期待
- 多様な知識・経験を持つ人材との連携を強化し、そういった人材を取り込むことで、社会のニーズに対応しつつ、高い教育力を持つ組織となることが必要

(2) 教師のICT活用指導力の向上方策

- 国で作成されたICTを活用した学習場面や各教科等の指導におけるICT活用に係る動画コンテンツについて、教職課程の授業における活用を促進
- 教職課程において各教科に共通して修得すべきICT活用指導力を総論的に修得できるように新しく科目を設けることや、教職実践演習において模擬授業などのICTを活用した演習を行うこと等について検討し、教職課程全体を通じた速やかな制度改正等が必要
- 教師のICT活用指導力の充実に向けた取組について大学が自己点検評価を通じて自ら確認することや、国において大学の取組状況のフォローアップ等を通じて、大学が実践的な内容の授業を確実に実施できる仕組みの構築
- 都道府県教育委員会等が定める教師の資質・能力の育成指標における、ICT活用指導力の明確化等による都道府県教育委員会等の研修の体系的かつ効果的な実施
- 教師向けオンライン研修プログラムの作成など、研修コンテンツの提供や都道府県における研修の更なる充実
- 教員研修等におけるICT機器の積極的な使用やオンラインも含めた効果的な実施

(3) 多様な知識・経験を有する外部人材による教職員組織の構成等

- 「社会に開かれた教育課程」の実現に向け、地域の人的資源等を活用し、学校教育を社会との連携の中で実現
- 社会教育士を活用し、学校と地域が連携した魅力的な教育活動の企画・実施
- 社会人等の勤務と学修時間の確保の両立に向けた、教職特別課程における修業年限の弾力化等による制度活用の促進
- 従来の特別免許状とは別に、より短期の有効期間で柔軟に活用できる免許状の授与等により、多様な人材が参画できる柔軟な教職員組織の構築

(4) 教員免許更新制の実質化について

- 教員免許更新制が現下の情勢において、子供たちの学びの保障に注力する教師や迅速な人的体制の確保に及ぼす影響の分析
- 教員免許更新制や研修を巡る制度に関する包括的検証の推進により、必要な教師数の確保とその資質・能力の確保が両立できるような在り方の総合的検討

(5) 教師の人材確保

- 教師の魅力を発信する取組の促進、学校における働き方改革の取組や教職の魅力向上策の国による収集・発信や、民間企業等に就職した社会人等を対象とした、教職に就くための効果的な情報発信
- 教員免許状を持つものの教職への道を諦めざるを得なかった就職氷河期世代等が円滑に学校教育に参画できる環境整備
- 高い採用倍率を維持している教育委員会の要因の分析・共有等による、中長期的視野からの計画的な採用・人事の推進

地域に開かれた学校づくりと 社会に開かれた教育課程

- 外側から内側・内側から外側へ **Outside in Inside out**

小学校: 登下校指導 放課後居場所・放課後学習・クラブ活動・児童会・避難訓練・安全教室・SNS対応・ICT教室等

中学校: 部活動・放課後教室・生徒会・委員会・防災訓練・体験学習・キャリア教育・検定試験対策・休業中対策講座等

- 教育課程への参画 ICT活用により **Real & Virtual**へ

道徳・特別活動・総合的な学習(探究)の時間・体験学習・技能教科・内容教科・ALT/TT/AT/SS(スクール・サポーター)等

- 社会に開かれた教育課程 各教科単元の中での工夫

**小学校・中学校・高等学校では
地域との連携・協働・共生のために
どのような可能性があるのでしょうか？**

子供や学校の抱える課題の解決、未来を担う子供たちの豊かな成長のためには、
社会総掛かりでの教育の実現が不可欠です。

現在の子供たちの教育環境を取り巻く状況

学校の統廃合

いじめ・暴力

ICT・情報化

少子高齢化

核家族化

外国語教育

アクティブ
ラーニング

人口減少の進行

地域社会のつながりや支え合いの希薄化

貧困問題の深刻化

児童虐待の増加

★ **社会の動向** ★

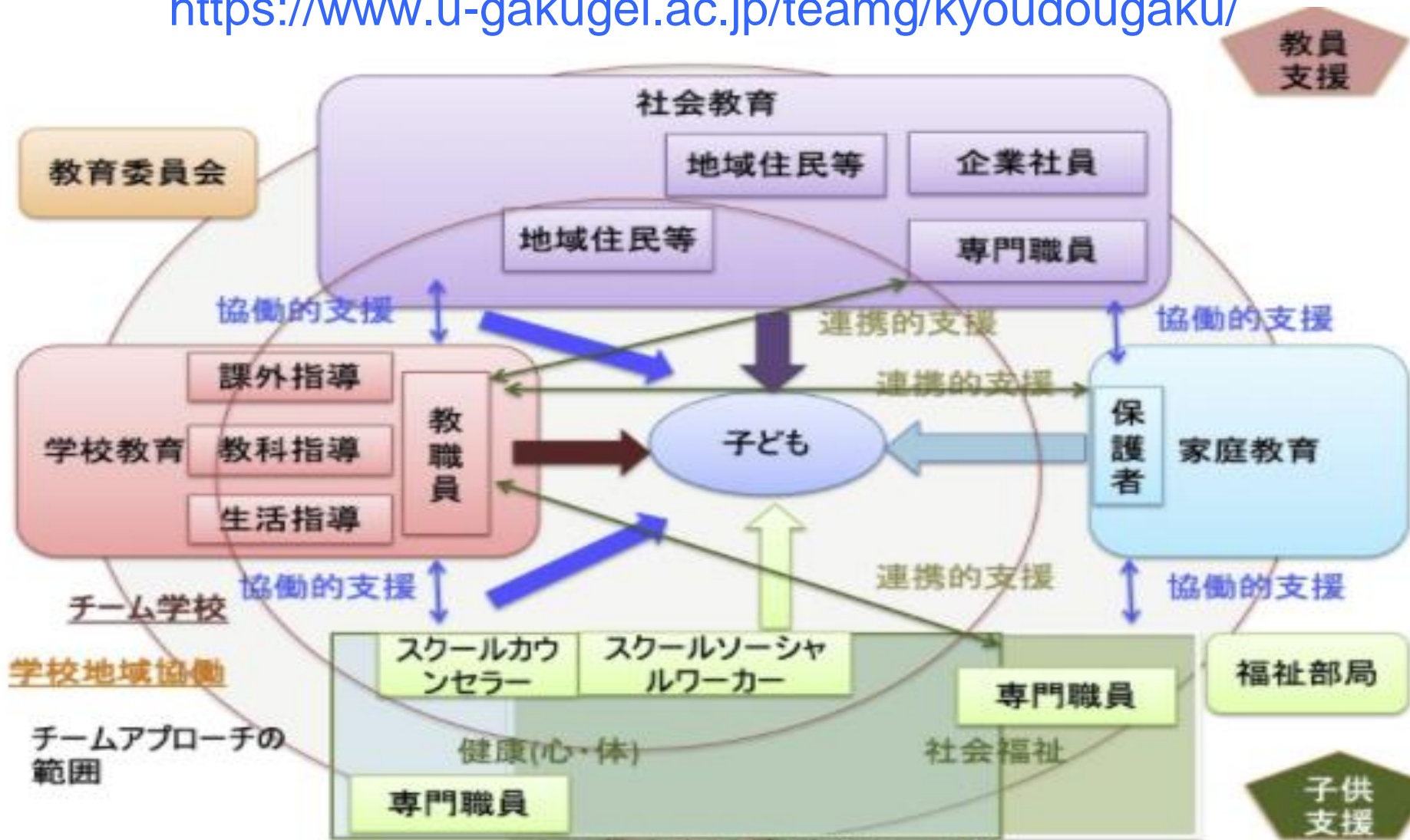
グローバル化の進展

子供たちの規範意識や社会性等の課題

複雑・多様化した学校の課題に伴う教職員の勤務負担

子どもを取り巻く教育支援の現状は

<https://www.u-gakugei.ac.jp/teamg/kyoudougaku/>



この在り方をどのように連携・協働・共生につなげるか

自己評価を促す評価

① 思考・判断・表現の評価(B問題系)

知識・理解・技能を活用した課題探究型学びの評価

② パフォーマンス評価の実施(結果 アウトカム)

実際の作品・発表・演技などの質を段階で評価(A~E)

③ ルーブリック Rubric 評価の可能性と課題

例 A(優秀)・B(合格)・C(不十分)・D(評価不可)＋
どのような状態か学習者に基準(Standard)を示す

④ ポートフォリオ Portfolio 評価(プロセス)

学習活動の過程や途中成果の記録や作品を集積

目標や基準の確認・集積と選択・振り返りと確認・検討

自己評価を導くルーブリック評価

	S	A	B	C
評価項目(1)	評価基準	評価基準	評価基準	評価基準
評価項目(2)	評価基準	評価基準	評価基準	評価基準
...

S : Super (期待する思考活動以上に、何かプラスαが見られる)

A : 十分満足できる (期待する思考活動が十分見られる)

B : 概ね満足できる (期待する思考活動は見られるが、未到達な部分もある)

C : 努力を要する (期待する思考活動が見られない)

ルーブリック評価指標(基準 Standard)の作成 例

観点(例)	内容	A(優良)	B(規準)	C(不十分)	D(不可)
問題の把握	教科書を読み、課題を把握する	きちんと把握しており内容も正確	ほぼ把握している	不十分である 改善の余地が多い	参加していない 全くできていない
予想の質	自分の予想を立てる	理由も含めてきちんとした予想が立てられた	一応予想している 根拠を十分示していない	予想の意味を把握しないため不十分である	予想を全く立てていない 学習に参加しない
学習活動の質	グループで活動する	主体的に取り組み協働意識も高い	自分の考えはあるが、やや周りに迎合しがち	学習活動の質が自他ともに不十分	学習活動に参加せず、全く取り組んでいない
作品の質	自己評価・相互評価・教師評価・第三者評価	すばらしい作品であり、発表内容も説得的で優れている	一定水準の作品はできたが、まだ改善の余地はある	作品の質が今ひとつであり、一層の努力や工夫が必要	作品を提出していない あるいは提出日に間に合わない

「社会に開かれた教育課程」を実現する学校づくり

具体化のためのテーマ別実践事例15

貝ノ瀬 滋 [監修]

稲井 達也・伊東 哲・吉田 和夫 [編著]



「社会に開かれた教育課程」を実現する学校づくり—
具体化のためのテーマ別実践事例15 2018/12/12

学事出版発行

稲井 達也 (著, 編集), 伊東 哲 (著, 編集), 吉田 和夫 (著, 編集),

貝ノ瀬 滋 (監修)

第1部

「社会に開かれた教育課程」を進める学校づくりの概説

- 1 「社会に開かれた教育課程」とこれからの学校教育
～多忙化する学校改革の視点から～
- 2 「社会に開かれた教育課程」を実現する教育委員会との連携の在り方
- 3 「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた校長・副校長・教頭の役割
～スクール・マネジメントの観点から～
- 4 「社会に開かれた教育課程」を実現する要としての学校図書館
～学ぶとは知ること、学ぶとは変わること～

[コラム]

「社会に開かれた教育課程」の具体を生み出す方法的枠組みについて

第2部

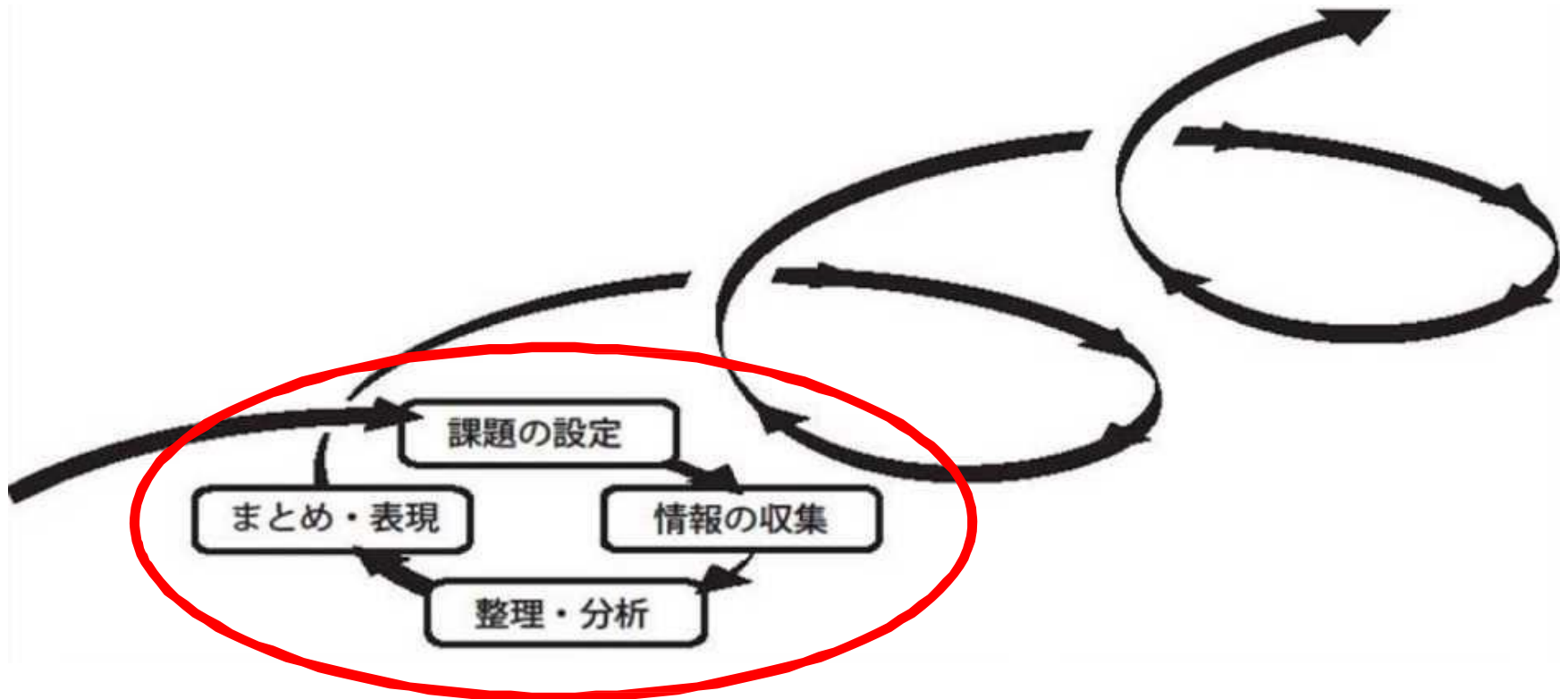
「社会に開かれた教育課程」を進める学校づくりの実践事例

- [1] コミュニティ・スクール
- [2] 保幼小連携教育
- [3] 小中一貫教育
- [4] 「読書のまち」と読書活動
- [5] 健康教育
- [6] 食育(スーパー食育スクール)
- [7] 睡眠教育(みんなく)
- [8] がん教育
- [9] 観光教育
- [10] グローバル教育
- [11] ESD(持続可能な開発のための教育)
- [12] 人格(品格)教育
- [13] キャリア教育
- [14] 特別支援教育
- [15] 主権者教育

テーマ別に15の実践事例を収録。
新学習指導要領を具体化するカリキュラム・マネジメントの必携書。
【教育課程/小・中学校管理職対象】

<http://www.gakuji.co.jp/book/978-4-7619-2521-5.html>

探究のプロセス



■ 日常生活や社会に目を向け、児童・生徒が自ら課題を設定する。

■ 探究の過程を経由する。

- ① 課題の設定
- ② 情報の収集
- ③ 整理・分析
- ④ まとめ・表現

■ 自らの考えや課題が新たに更新され、探究の過程が繰り返される

課題設定

1. 現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題

例) 国際理解：外国人の生活者とその人たちの多様な価値観

情報：情報化の進展とそれに伴う経済生活や消費行動の変化

環境：自然環境とそこに起きているグローバルな環境問題

福祉：高齢者の暮らしを支援する福祉の仕組みや取組

健康：心身の健康とストレス社会の問題

資源エネルギー：社会生活の変化と資源やエネルギーの問題

食：食の問題とそれに関わる生産・流通過程と消費行動

科学技術：科学技術の発展と社会生活や経済活動の変化

2. 地域や学校の特色に応じた課題

例) 町づくり：地域活性化に向けた特色ある取組

伝統文化：地域の伝統や文化とその継承に取り組む人々や組織

地域経済：商店街の再生に向けて努力する人々と地域社会

防災：安全な町づくりに向けた防災計画の策定

3. 生徒の興味・関心に基づく課題

例) 文化の創造：文化や流行の創造や表現

教育・保育：変化する社会と教育や保育の質的転換

生命・医療：生命の尊厳と医療や介護の現実

4. 職業や自己の進路に関する課題

例) 職業：職業の選択と社会貢献及び自己実現

勤労：働くことの意味や価値と社会的責任

総合的な探究の時間の特例

卒業までに3～6単位履修しなければならないが、以下の科目で代替することも可能である。

- ▶ 農業 「課題探究」
- ▶ 工業 「課題探究」
- ▶ 商業 「課題探究」
- ▶ 水産 「課題探究」
- ▶ 家庭 「課題探究」
- ▶ 情報 「課題探究」
- ▶ 看護 「看護臨地実習」
- ▶ 福祉 「介護総合演習」
- ▶ 理数 「理数探究基礎・理数探究」

総合的な探究の時間の履修と同様の成果が期待できる場合に限る

総合的な探究の時間における学習活動により、**特別活動の 学校行事の実施**と同様の成果が期待できる場合においては、総合的な探究の時間における学習活動をもって相当する特別活動の学校行事に掲げる各行事の実施に替えることができる。

- ▶ 社会体験活動（自然体験、就業体験活動）
- ▶ 旅行・集団宿泊的行事（校外学習、修学旅行）
- ▶ 勤労生産・奉仕的行事（職場体験、ボランティア活動）

学校での学びをもとにするからこそ出来る、 地域での生きる力としてのプログラミング等の学習

目指しているのは

小・中・高・大の進学、社会生活 & 家庭生活など将来に役立つ **生きる力としてのプログラミング等学習**

- ・生きる力として、何かを解決するための学びの一環としての **汎用的なプログラムやICT活用**
- ・無料ツールのより有益な活用、複数の無料ツールを効果的に連携のための新たなリテラシー

無料のオンライン・オフラインツールの活用

ビッグデータ収集 & 各種

(データ分析・実験・理解・調査 & 判断 & 能力育成)

動画制作

(学習成果プレゼン、アート)

楽譜ソフト

(音楽学習・オーケストラ協働学習・情操)

Youtube & Google翻訳

(海外学習Youtubeによる情報収集、言語学習)

数値・数式・グラフ

(算数・数学・データ分析・実験)

3Dモデリング

(空間把握・シミュレーション、アート)

Atalas系・ Universe系ツール

(地理・地学の学習 & 研究・情操)

Googleドライブ

(作文・レポート・記録)

高機能Scratch

(算数・アート・EXE生成・Python連携)

いずれのツールも各々に備わるプログラミング機能で、より一層効果を発揮します。

活用・連携

Python・世界標準超軽量簡単シンプルUNIXシェルスクリプト

いずれも各省庁が提供するものや世界的に利用されている無料のオンライン・オフラインツールを活用



学校での学びをもとに連続的に地域での学びへ

EdriStudy 地域の保護者の方々、子どもたちとともに 新たな学びを！

～ 学校での授業をもとに、楽しく、そして未来に生きる力を育てるために ～

《学習ナイト》

リアル(公共機関など):1名から5名、Zoom(ビデオ不要):1名から2名

- ・学校で学んだことをもとに、さらに楽しく学びたいと思ったとき、学ぶための全教科の教材はネット上に溢れています。
- ・でも、それを上手に利用したり、楽しく学んだり、将来のためになるように上手に学ぶのは一人では難しいと思います。
- ・学習ナイトが、保護者の方と相談しながらお子様が楽しく深く効果的に学べるように教材をアレンジしてサポートします。
- ・地域で保護者様とお子様と一緒に楽しい学びの食卓(教材シェフが美味しい料理、学習ナイトが楽しい食卓のサポート)

世界で標準的に利用されていて無料で利用できるオンラインツールやオフラインツール
～進学しても社会に出ても家庭でもずっと学びと生きる力として役立つように～

♪比較検討の中から将来にわたって継続して利用できるものを研究して選んでいます♪

学習ナイトも一緒に利用します→楽しい学習用教材へアレンジと味付けをするため

栄養価の高い学びの素材を楽しく学べるように教材シェフがアレンジ(味付けと盛り付け)

学習指導要領関係の
サンプル問題
～文部科学省～
(国立教育政策研究所)

各教科書会社提供の
無料副教材
(学校利用の教科書
会社を事前に確認)

中学・高校入試で
各校が公開している
各教科の入試問題
及び解答・解説

MITや東大など世界
の大学などが
無料公開している
動画・PDF教材

日本語・英語での著
作権フリーの名作本
(著作権フリーの
素材・音源・挿絵)

学びの基本部分と方針を
正しく確実に把握する

これと一緒に上手に利用
して楽しく学ぶようにする

入試問題は苦いけど栄養
が満点、良い素材になる

将来の学習傾向を把握し
て今の学習に活かす

日英での良い読書での
作文力と知力の向上

ご協力、ありがとうございました。

(一社)教育デザイン研究所

新宿区四谷1-18高山ビル JR/地下鉄四ツ谷駅徒歩3分

TEL 03-5341-4227 Fax 03-4332-2338

リアルとオンラインによるハイブリットな学びの追求

非常勤講師を正規教員に！(Zoomによる教員採用試験対策講座)

表現・創作型の英語・国語・プログラミング等の言語学習

大型タッチスクリーンによるハイブリットスタジオ/会議室設定予定

<https://educational-design.jimdo.com/>

事務局: yoshidak13@edri.tokyo 個人 yoshidak13@goo.jp



日本大学文理学部教育学科(非常勤講師)

文部科学省審査会(主査)

町田市教育委員会教育プラン点検評価者

町田市社会教育・生涯学習審議会(会議長・会長)

町田市図書館協議会委員・小金井市図書館協議会委員

東京都教育委員会地域協働活動推進事業推進員

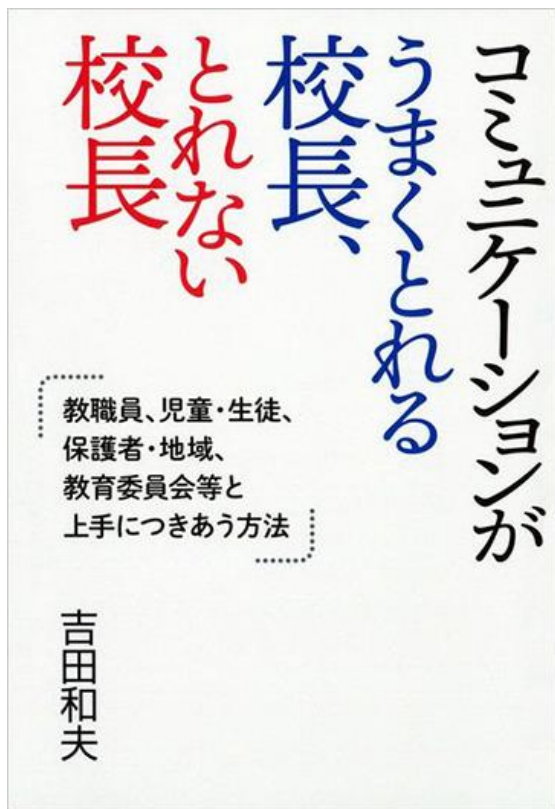
・狛江市地域協働活動統括コーディネーター

DAC未来サポート文化事業団(理事)

NPO英語運用能力評価協会(言語アドバイザー)



新刊 コミュニケーション・ストラテジーの提案



吉田和夫 著
四六判 192ページ 定価(本体1,800円+税)

ISBN978-4-7619-2579-6

教職員や児童・生徒、保護者や地域に校長の教育理念を伝え浸透させ、めざす学校づくりを実現するためには、コミュニケーション力が最も重要。具体的な事例を取り上げ、コミュニケーション力を高める基本的な考え方や方策を示す。

はじめに

第1章 なぜいまコミュニケーション力が大事なのか

第2章 教職員とのコミュニケーションがうまくいく方法

- 1 職員室の雰囲気が悪い 【事例1】やる気のないベテラン教員
- 2 明るい職員室が生き生きとした児童・生徒を育む 【事例2】現任校に不満をもつ教諭
- 3 校長の言葉かけと教員の指導 【事例3】地域同士の反目が生徒に影響
- 4 チーム学校を目指して 【事例4】教職員や児童・生徒とうまくいかない
- 5 チーム学校とは言うけれど 【事例5】自分のやり方を押し通す事務主事
- 6 教職員間での立場の違いが生む意見対立 【事例6】学校司書と国語科教諭の対立
- 7 多忙な教師をおそう「うつ病」への対応 【事例7】前任校での「うつ」を知らされず転任

第3章 児童・生徒とのコミュニケーションがうまくいく方法

- 1 児童会・生徒会・委員会役員などとの対話 【事例8】生徒の自主性・自律性を生かした学校づくり
- 2 不登校やいじめ被害の児童・生徒への対応 【事例9】いじめが原因の不登校
- 3 課題のある児童・生徒への対応 【事例10】次第に欠席が増えていく生徒
- 4 特別な支援を要する児童・生徒への対応 【事例11】介助が必要な2人の児童
- 5 うつ病の可能性のある児童・生徒への対応 【事例12】落ち込むことが多くなった児童

第4章 保護者・地域とのコミュニケーションがうまくいく方法

- 1 学校への不信・不満をもつ保護者への対応 【事例13】担任に対する保護者の不満
- 2 クレームの多い保護者への対応 【事例14】クレーマーと言われる保護者の背景
- 3 PTAなど学校支援組織の保護者への対応 【事例15】行き詰まるPTA運営
- 4 学校運営協議会委員など地域の方への対応 【事例16】コミュニケーションに問題がある教頭
- 5 課題のある地域住民への対応 【事例17】騒音被害を訴える学校近隣住民

5章 教育委員会・関係諸機関とのコミュニケーションがうまくいく方法

- 1 学校行事に関する教育委員会との調整 【事例18】創立周年行事をめぐる学校と教育委員会の対立
- 2 人員配置に関する教育委員会との対応 【事例19】人事異動の影響
- 3 教育委員会担当指導主事及び担当者への対応 【事例20】教育委員会との対応に問題がある教頭
- 4 教育委員会指導課(室)以外の関係者への対応 【事例21】プライベートで議員に話した内容が公に
- 5 関係諸機関との対応 【事例22】図書館とのタイアップのつもりが...

悩み多き教師の皆様に寄り添う本

教師らしいストイックな堅さは、諸刃の剣。堅いだけでは、壊れてしまう! ストレスを溜めない、悩まない! 人とつながる「教師」のための処世術!

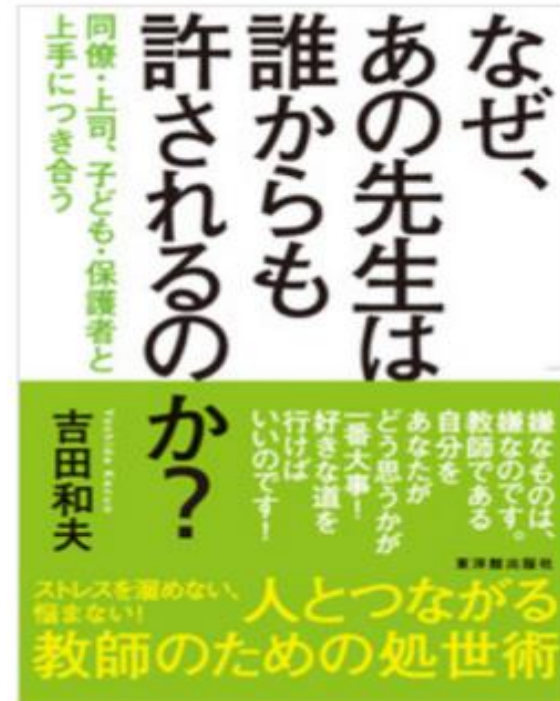
教師である自分を、あなたがどう思うかが一番大事! 自分をもっと好きになるノウハウ満載!

東洋館出版 2013年3月発行

現在4刷

定価 1,944円(税込)

<http://www.toyokan.co.jp/book/b107891.html>



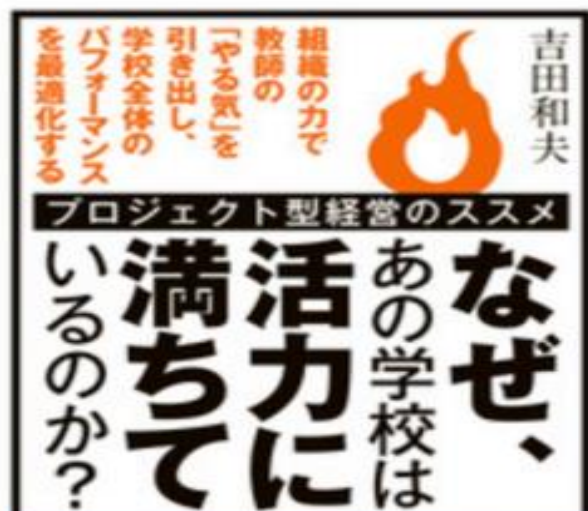
より良い学校経営と人財育成のための本

教員の「多忙感」を解消する学校経営、すなわちプロジェクト型経営を提案します。教員が仕事しやすい組織、教員のやる気を引き出すコーチングを通して、学校全体のパフォーマンスを高めます。そのプロセスで、教員間の「人間関係」をスムーズにし、教員の「多忙感」を解消します。

東洋館出版 2015年2月発行 現在4刷

定価 2,160円(税込)

<http://www.toyokan.co.jp/book/b193953.html>



仕事は「統合」する。チーム力が教師を生かす、守る。だから「多忙感」が解消する、「活力」が生まれる。

主体的・対話的で深い学びを促す中学校・高校国語科の 授業デザイン アクティブ・ラーニングの理論と実践

<http://www.gakubunsha.com/book/b252991.html>

主体的・対話的で深い学びを促す
中学校・高校国語科の授業デザイン

アクティブ・ラーニングの理論と実践

福井 達也 編著
吉田 和夫



中教審答申に示された「主体的・対話的で深い学び」、いわゆる「アクティブ・ラーニング」を取り入れた中学校・高校の国語科はどのように授業すればよいのか。その理論と方法を研究者が解説し、それらと関連づけてデザインした授業に取り組む教師がその実践内容を具体的に示しながら指導計画・展開例、評価規準等を丁寧に着した必読書。

「主体的・対話的で深い学び」 と読書・読書活動の関係

読書活動の意義や役割、その可能性を考えてみようとする先生方に、どの教科の授業でも、どの教科の教員でもすぐに手軽にできる読書活動や、授業の中で取り組める効果的な読書活動、読書指導を具体的に示す事例集。3刷決定



akuji.co.jp/book/978-4-111-8.html

読書及び読書活動は、
主体的・対話的で深い
学び である！

小学校の各教科、道徳、総合的な学習の時間、外国語活動で図書を活用した学習の先進的な実践事例集。単元指導計画、ワークシート例も豊富に掲載。楽しく・無理なく授業に読書を取り入れられます。

51

<http://www.gakuji.co.jp/book/978-4-7619-2328-0.html>



学校と社会教育を結ぶコンテンツとしての 言語としてのプログラミング学習



プログラミングは国語や英語と同じ「言語」だということです。いわば、機械を操作し、動かすための言語ということです。

国語教育では、「順序立てて考える力」、「感じたり想像したりする力」、「伝え合う力」などが求められていますが、まさに、プログラミング学習もそれが求められることになります。小学校でのプログラミング教育は、このような広い意味での「ことばの力」をはぐくむものだと言えます。

中学校、高校、大学でのプログラミング教育はより専門的かつ工学的なものになるのですが、小学校で求められるプログラミング学習は各教科で行われる「ことばの力」を育成し、それぞれの教科の内容を補充するツール(道具)として機能します。

<http://social-edus.net/20177repprog/>

主体的・対話的で深い学びを促す中学校・高校国語科の 授業デザイン アクティブ・ラーニングの理論と実践

<http://www.gakubunsha.com/book/b252991.html>



中教審答申に示された「主体的・対話的で深い学び」、いわゆる「アクティブ・ラーニング」を取り入れた中学校・高校の国語科はどのように授業すればよいのか。

その理論と方法を研究者が解説し、それらと関連づけてデザインした授業に取り組む教師がその実践内容を具体的に示しながら指導計画・展開例、評価規準等を丁寧に著した必読書。

「社会に開かれた教育課程」を実現する学校づくり

具体化のためのテーマ別実践事例15

貝ノ瀬 滋 [監修]

稲井 達也・伊東 哲・吉田 和夫 (編著)



「社会に開かれた教育課程」を実現する学校づくり—
具体化のためのテーマ別実践事例15 2018/12/12

学事出版発行

稲井 達也 (著, 編集), 伊東 哲 (著, 編集), 吉田 和夫 (著, 編集),

貝ノ瀬 滋 (監修)

第1部

「社会に開かれた教育課程」を進める学校づくりの概説

- 1 「社会に開かれた教育課程」とこれからの学校教育
～多忙化する学校改革の視点から～
- 2 「社会に開かれた教育課程」を実現する教育委員会との連携の在り方
- 3 「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた校長・副校長・教頭の役割
～スクール・マネジメントの観点から～
- 4 「社会に開かれた教育課程」を実現する要としての学校図書館
～学ぶとは知ること、学ぶとは変わること～

[コラム]

「社会に開かれた教育課程」の具体を生み出す方法的枠組みについて

第2部

「社会に開かれた教育課程」を進める学校づくりの実践事例

- [1] コミュニティ・スクール
- [2] 保幼小連携教育
- [3] 小中一貫教育
- [4] 「読書のまち」と読書活動
- [5] 健康教育
- [6] 食育(スーパー食育スクール)
- [7] 睡眠教育(みんないく)
- [8] がん教育
- [9] 観光教育
- [10] グローバル教育
- [11] ESD(持続可能な開発のための教育)
- [12] 人格(品格)教育
- [13] キャリア教育
- [14] 特別支援教育
- [15] 主権者教育

テーマ別に15の実践事例を収録。
新学習指導要領を具体化するカリキュラム・マネジメントの必携書。
【教育課程/小・中学校管理職対象】

教員養成と教育実習・教員採用試験



教師への第一歩、教育実習を成功させるために――

教育実習前後の心得や、実習中の留意事項を時系列で取り上げ、「学校とは」「教師の役割とは」…など自問自答しながら解決策を導き出す、自分で考え、自分らしさを発揮できる教育実習のための必携書！

時事通信社

玉川大学教師教育リサーチセンター著

2020年12月 時事通信社発行

定価：2200円＋消費税

ISBN：978-4-7887-1713-8



玉川大学教師教育リサーチセンター (編)

2020年12月 時事通信社発行

定価：2000円＋消費税

ISBN：978-4-7887-1693-3



効果的な研修会のためのDVD教材

大津市のいじめ自殺をきっかけに再びクローズアップされているいじめ問題。いじめに発展しやすいサインの見つけ方、兆候があった際の対応法を映像で解説。

【小・中・高校管理職・教職員研修用】

●DVD31分 手引書、研修用ワークシート付き
学事出版(2014/12/15)



急速に普及するスマホ・ネットに関連しての子ども達のトラブルが増加しているが、教師や保護者は知らないことが多い。知っておくべき知識、予防、対応を映像で解説。

【小・中・高校管理職・教職員研修用】

学事出版(2015/12/15)

●DVD31分
手引書、研修用ワークシート付き
学事出版(2014/12/15)

心を病み休職、さらには退職に至る教職員は年々増加している。本人や周囲が不調のサインに早期に気づき、対応するためのポイントを映像でわかりやすく解説。

【小・中・高校管理職・教職員研修用】

●DVD31分
手引書、研修用ワークシート付き
学事出版(2014/12・15)



<http://www.gakuji.co.jp/book/978-4-7619-2085-2.html>

見本動画あり！

3巻とも、全て定価 12,960円(税込)

現在、月刊誌3誌にコラムを連載中！



新しい「ラーニング・コミュニティを
みんなで創ろう」で連載中

日本青年館 発行
<http://social-edu.com/>

2020年4月より「学校の理不尽について」
両誌に同時連載中！

学事出版 発行
<http://www.gakuji.co.jp/magazine/principal/index.html>